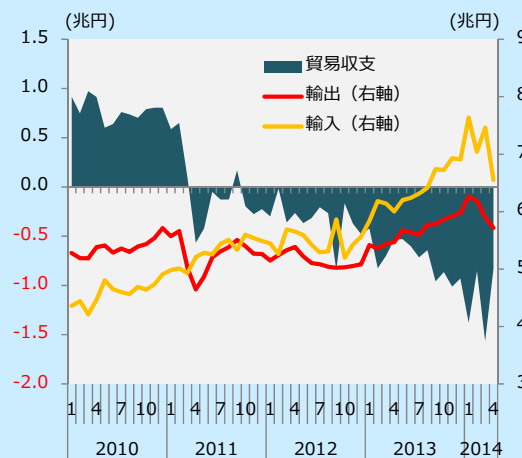
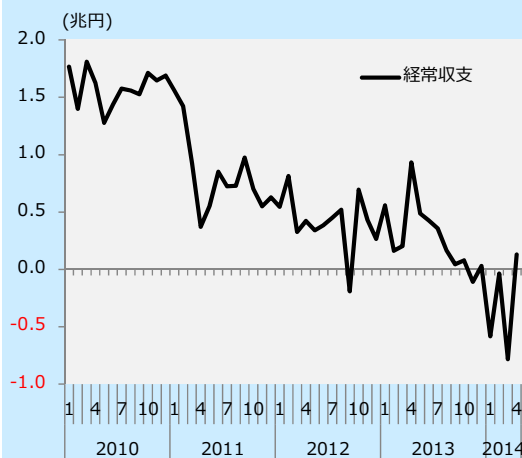


## 日本：国際収支状況（2014年4月）

MRI Daily Economic Points  
June 9, 2014

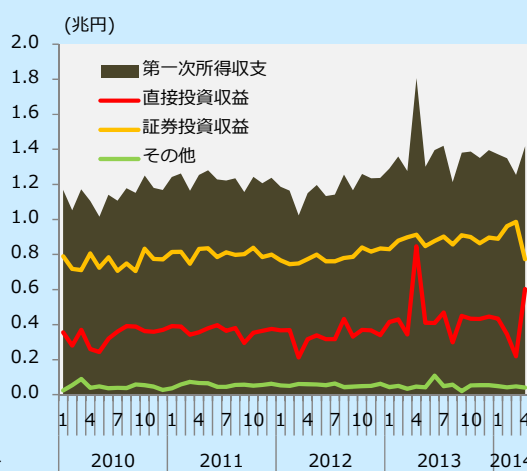
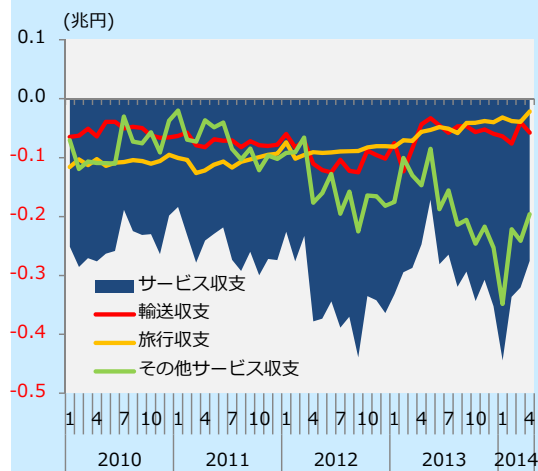
## 経常収支

## 貿易収支



## サービス収支

## 第一次所得収支



資料：財務省「国際収支状況」

## 評価ポイント

## 2014年4月の結果

- 4月の経常収支(季調値)は1,305億円となり、3月の▲7,829億円から一転して黒字となった。黒字幅は僅かではあるものの、4か月ぶりの黒字転換である。
- 内訳をみると、貿易収支が▲8,314億円となり、前月(▲1兆5,667億円)から赤字幅は大幅に縮小。輸出は依然として減少傾向にあるものの、消費税増税や環境税引上げ(いずれも14年4月実施)を前にした駆け込み輸入の影響が4月に入って剥落したことが背景にある。
- サービス収支は▲2,753億円となり、前月(▲3,203億円)から赤字幅が若干縮小した。赤字幅の縮小は3か月連続。訪日外客数の増加から「旅行収支」の赤字幅が縮小トレンドにあるほか、各種業務サービスが含まれる「その他サービス収支」の赤字幅もこのところ縮小傾向にある。
- 第一次所得収支は1兆4,176億円となり、前月(1兆2,545億円)から黒字幅が拡大した。証券投資収益が7,738億円と前月(9,867億円)から減少した一方、直接投資収益が6,033億円と前月(2,199億円)から大幅に増加した。

## 基調判断と今後の流れ

- 経常収支は、所得収支が一定の黒字幅を維持する一方、輸出の低迷や燃料輸入の増加に加え、消費税増税前の駆け込み輸入もあって、貿易収支の赤字幅が13年度末にかけて拡大傾向にあった。
- こうした流れのなか、消費税増税の影響が剥落したことで4月の経常収支は黒字に戻した。ただし、アジア向けを中心とする輸出の低迷や、天然ガス等の燃料輸入の増加といった構造的要因に大きな変化は見込みにくい。先行きの経常収支は、赤字基調からは脱するものの、黒字幅は小幅にとどまると予想する。